

物を考察の対象として― 森 淳司 語文
 (四、31・11) 11
 万葉植物冬の巻 若浜汐子 白路(三三、33・2) 2
 露霜私考―万葉の露霜― 桑川定一 国語・国文(三七・六、33・6) 16
 万葉のカマメ 山本徳太郎 万葉(二六、33・7) 5
 「万葉のカマメ」を読んで 川村多実二 万葉(二六、33・10) 3
 万葉植物の時間性 若浜汐子 白路(二三・二、33・11) 4
 万葉植物名歌評釈一 若浜汐子 白路(二四・三、34・3) 5
 万葉植物名歌評釈二 若浜汐子 白路(二四・四、34・4、5) 5
 万葉植物名歌評釈三 若浜汐子 白路(二四・五、34・6) 3
 「ひさぎ」放 沢瀉久孝 国語国文研究(三三、34・7) 3
 万葉植物名歌評釈四 若浜汐子 白路(二四・七、34・7) 3
 万葉の花園(一)―(一)松の花・(二)ひさぎの花― 若浜汐子 白路(五三、35・2) 4
 万葉の花園(二)―(一)葦の花― 若浜汐子 白路(五三、35・3) 2
 万葉の花園(三)―花をととめ― 若浜汐子

白路(五六、35・6) 3
 万葉の花園(四)―夏の花― 若浜汐子 白路(五七、35・7) 4
 万葉の花園(五)―夏の花― 若浜汐子 白路(五八、35・8) 3
 万葉植物五種 岡田善敏 美夫君志(二、35・9) 3
 万葉の花園(六)―花と挽歌― 若浜汐子 白路(五二、35・10) 2
 万葉集の「聞く」「寒し」など 能勢佐十郎 国文学叢(二四、35・11) 6
 万葉景物小論―柳― 戸谷高明 学術研究(早稲田大学)(二〇、36・11) 8
 万葉に探る梅の花 若浜汐子 白路(二六、38・2) 18
 「橋」は何か 佐伯梅友 古文研究(四、38・12) 5
 万葉地理植物考、紫の根延ぶ横野 滝川政次郎 国学院雑誌(五五、四、39・4) 8

七 品物・民俗

上代文学における庶民性 喜多義男 解釈と鑑賞(二三、21・2) 7
 万葉集にあらはれた上代人の食生活について

中崎貞子 家庭科教育(五二、一、26・1) 8
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(紹介) 渡辺百世 家庭科学(五、26・7) 4
 卜占 竹園賢了 解釈と鑑賞(六八、26・8) 1
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(二) 渡辺百世 家庭科学(六、26・9) 3
 万葉集にあらはれたゞきものゞについて(三) 渡辺百世 家庭科学(三三、26・12) 4
 日曜に「密」字を標記した貝注曆 石田幹之助 国学院雑誌(五三、二、27・6) 13
 「標」の民俗 松原義雄 上代文学(二、27・9) 8
 奈良朝の楽器 尾山篤二郎 万葉集大成月報(四、28・8) 3
 万葉集と民俗学 折口信夫 上代文学(四、29・7) 7
 奈良朝の音楽について 東山晋士 万葉集大成月報(六、29・2) 5
 万葉の歌と正倉院 上松六郎 万葉集大成月報(六、29・2) 4
 万葉集における習俗の研究―「袖振る」考― 島田啓子 日本文学(東京女子大学)(五、30・6) 12
 水辺のをとめ 今井福治郎 万葉集大成月報(二六、30・6) 2
 紫染聞書 扇畑忠雄 万葉(二六、30・7) 3

- 万葉集と春日神社 板橋倫行 日本歴史(九、31・1) 2
- 万葉集の花鳥風月 今井福治郎 国学院雑誌(五三、31・6) 12
- 万葉時代の生活と習俗 肥後和男 解釈と鑑賞(三三〇、31・10) 8
- 万葉集と芸能と 西角井正慶 国学院雑誌(五七、31・12) 9
- 万葉刀劔考 鈴木敬三 国学院雑誌(五七、31・12) 10
- 万葉粟時考 市村 宏 文学論藻(七、32・6) 9
- 万葉集の水占について 鶴殿正元 明大人文学科学論集(五、32・9) 11
- 万葉集に見える土の信仰 鶴殿正元 和歌文学研究(五、33・1) 5
- 卷十四の東国民謡を推定す 江時沢淑子 国文学(四一、34・1) 5
- 万葉集の民俗―戊亥信仰をめぐる― 三谷栄一 国学院雑誌(六〇七、34・7) 8
- イモ、セの用語からみた家族、婚姻制度 品川滋子 文学(二七七、34・7) 13
- 平城京と街区とその周辺―文学環境としての平城京― 遠藤元男 国文学(五三、35・2) 6
- 平城京の宮廷生活―文学環境としての平城京― 原田芳起 国文学(五三、35・2) 5
- 平城京の建設とその変遷―文学環境としての平城京― 西岡虎之助 国文学(五三、35・2) 5
- 平城京の市民生活―文学環境としての平城京― 岸 俊男 国文学(五三、35・2) 5
- 和琴考 今井通郎 国学院雑誌(六六、35・6) 5
- 万葉人の結婚 市村 宏 上代文学研究会会報(六、36・2) 4
- 末靈信仰序説 神谷吉行 国学院雑誌(六二、36・10) 8
- 上代人の靈魂観 柳井己酉朔 万葉集研究(六、36・10) 8
- あづま歌に見える農業社会 今井福治郎 国文学(七六、37・5) 5
- 日本の地方官制に及ぼした中国の影響 森 克己 国文学(七六、37・5) 4
- 芸人部落の承譜―古代― 桜井 満 解釈と鑑賞(七二、37・10) 6
- 万葉集にあらわれた服飾 山田清野 島根女子短期大学紀要(一、37・11) 8
- 「在奈都良」考 渡部和雄 国語と国文学(四四、38・5) 9
- 年に稀なる神―東歌の研究― 桜井 満 上代文学(二四、38・7) 11
- 貴族・官吏 小島憲之・井手 至共著 国文学(九四、39・3) 9
- 市場・駅馬 尾畑喜一郎 国文学(九四、39・3) 9
- 死と葬送礼 竹内金治郎 国文学(九四、39・3) 4
- 神官・僧侶 今井福治郎 国文学(九四、39・3) 7
- 生活に滲透した外来習俗 中西 進 国文学(九四、39・3) 6
- 年中行事 西角井正慶 国文学(九四、39・3) 8
- 羈旅 扇畑忠雄 国文学(九四、39・3) 6
- 百姓(農・漁民)・奴隸 釜田喜三郎 国文学(九四、39・3) 11
- 服飾・若浜汐子 国文学(九四、39・3) 11
- 武器・器具・家具調度・度量權衡・建築・墳墓・食物 木内武男 国文学(九四、39・3) 19
- 兵士・遣外使 吉永 登 国文学(九四、39・3) 7
- 万葉時代の政治と経済 肥後和男 国文学(九四、39・3) 6
- 万葉集における生活感情 久松潜一 国文学(九四、39・3) 5
- 遊戯と漁・獵 松田好夫 国文学(九四、39・3) 9
- 恋愛と家庭生活 森脇一夫 国文学(九四、39・3) 9
- 万葉集への民俗学的方法 高崎正秀 美夫君

八 研究 史

- 伴信友の万葉研究—信友書八万葉集について
— 久松潜一 国語と国文学(三二・20・2) 7
- 下河辺長流の万葉研究 久松潜一 短歌研究(三〇・20・10) 4
- 本居宣長の書簡について 久松潜一 文学(三一・20・10) 4
- 最近の万葉集研究 森脇朋夫 文学(三三・20・12) 10
- 若き日の賀茂真淵 三枝康高 国語と国文学(三一・21・1) 11
- 賀茂真淵の古典会話—谷垣守日記—並に「古事記聞書」を資料として—南 信一 国語と国文学(三三・21・9) 7
- 子規について 森原蘿月 国語と国文学(三三・21・10) 9
- 伝良寛書入本万葉集について 関 克己 国語と国文学(三三・22・2) 3
- 伝良寛書入本万葉集について 関 克己 国語と国文学(三三・22・3) 11
- 啄木と万葉集 小暮政次 日本短歌(二六五)

- 22(6) 4
古葉略聚鈔考 吉永 登 国語・国文(二六・22・7) 25
- 鎌倉時代奈良における万葉集研究 永島福太郎 国語と国文学(三二・23・1) 4
- 京極派と万葉との問題 谷 宏 文学(二六・23・2) 11
- 正岡子規の近世万葉研究書目 佐々木信綱 国語と国文学(三二・23・9) 3
- アララギ万葉学その他 島崎千秋 短歌研究(三二・23・11) 5
- 永言格と万葉集古義自筆稿本 松村誠一 国語と国文学(三三・24・3) 7
- 仮字万葉と見た赤人集及び柿本集一部—私家集の成立に関する考察— 後藤利雄 国語と国文学(三三・25・2) 18
- 万葉研究史ノート 武川忠一 文学(二六・25・9) 6
- 窪田万葉と土屋万葉 田辺幸雄 短歌研究(二六・26・3) 5
- 仙覚・新点の歌について 上田英夫 国語と国文学(二六・26・5) 5
- 由阿の伝について 浜口博章 万葉(二六・10) 7
- 万葉研究一千年 高木市之助 日本文学研究(二七・26・11) 5
- 斎藤茂吉 橋本徳寿 解釈と鑑賞(二七・27)

- 4) 3
島木赤彦 岡山 巖 解釈と鑑賞(二七・4) 2
- 正岡子規 藤川忠治 解釈と鑑賞(二七・4) 3
- 家庭人としての宣長 本居清造 国学院雑誌(三二・27・4) 8
- 渡順と万葉集 佐藤謙三 国学院雑誌(三二・27・4) 7
- 実朝の歌とその集について 佐々木信綱 国語と国文学(二六・27・5) 3
- 国学の伝統—その学風に於ける注意すべき諸傾向— 河野省三 国学院雑誌(三三・11) 14
- 三山歌の語釈史を辿る 吉永 登 語文(二七・11) 6
- 真淵草稿本「竹取翁長歌解」について 神堀 忍 万葉(二八・1) 4
- 露伴の万葉研究 塩谷 贊 万葉集大成月報(二八・3) 3
- 万葉集研究の展望一 藤森朋夫 万葉集大成月報(二八・6) 4
- 万葉集研究の展望二 小島憲之 万葉集大成月報(二八・6) 3
- 斎藤茂吉の「古典研究」 難波喜造 文学(二七・28・7) 6
- 斎藤茂吉の人際追求 高木市之助 文学(二七・28・7) 6